

「けやき俳句の会」会報(第百九十二回)

令和元年七月

第百九十二回句会記録

★日時 七月三日

★場所 けやき学習室

★真樹先生投句

③ 落し文正義少なき世をなげく

① 青葉濃き寺謙信の第一義

① まいまいの異議申し立て雨三日

★真樹先生選句 (◎は特選)

◎◎ 五月雨や苔むす墓誌にある義心

◎◎ 薫風を集めて走る牧羊犬

◎◎ 新じやが採れる義弟遺せし畠から

③ 梅雨嵐子を失いし烏かな

③ 大義なき人の蠢き梅雨の闇

③ 実梅美しあばたもえくぼ我が庭の

② 入れたての義齒頼もしく心太

① ねじばなの紅目立つ芝生かな

① 義理堅く褪せても直立花菖蒲

① 絶え間なく山間昇る海霧深し

① 今日夏至虹の架け橋日暮るるや

① 梅雨小雨野菜の苗の喜々として

而今

春草

誠

藍愛

藍愛

一華

かな太

青嵐

青嵐

冬水

蕉哉

秋雲

★会員互選句

④ 義肢を得て強く高くと夏の空

③ 恙なく日暮れて行けり沙羅の花

③ 青田鷺義に生く武士か凜と佇つ

③ 苔の寺利久鼠の梅雨けふる

③ 夏の夜のもの産まれる飼育箱

② 義姉逝くや昭和の苦難背負いつつ

② 紫陽花の青の深さや義士の墓

② 父の日やなお耳底に叱声が

② 梶子や今優雅なる時空間

② 波濤遙か越えて夏蝶の翅音

一華

要

樹音

清明

かな太

蕉哉

秋雲

要

春草

清明

① 義理堅く今年も来たり梅雨豪雨

① 母に供ふ夫丹精の唐菖蒲

① 天界へ絆は硬し大賀蓮

① 幾度の喝采プリマの汗しとど

① 無人駅今日はいくつの夏帽子

① 葉隠れの実梅一つの出合いかな

① 雨蛙パターの動き見極めり

① 子育ての鴉の威嚇目伏せ去る

① 鳴神や鮮烈三十路義仲公

真弓

真弓

夕佳

夕佳

夕佳

香魚

一華

秋雲

樹音

清明

【次回開催】

★日時・令和元年八月七日(水)

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「刹」を含め三句